診療ガイドライン総論

公益財団法人　日本医療機能評価機構
Mindsガイドラインセンター

Minds

（1）　診療ガイドラインとは
（2）　診療ガイドライン作成の全体像

（1）　診療ガイドラインとは
（2）　診療ガイドライン作成の全体像

Minds診療ガイドラインの定義

診療上の重要度の高い医療行為について、エビデンスのシステマティックレビューとその総体評価、益と害のバランスなどを考量して、患者と医療者の意思決定を支援するために最適と考えられる推奨を提示する文書

Minds診療ガイドラインの定義

診療上の重要度の高い医療行為について、エビデンスのシステマティックレビューとその総体評価、益と害のバランスなどを考量して、患者と医療者の意思決定を支援するために最適と考えられる推奨を提示する文書

診療ガイドラインの基本構造

診療上の重要度の高い医療行為

↓

最適と考えられる推奨

Copyright(c) Minds. Japan Council for Quality Health Care. All Rights Reserved.

診療ガイドラインの基本構造

診療上の重要度の高い医療行為

- システマティックレビュー
- 益と害のバランス
- など

最適と考えられる推奨

Copyright(c) Minds. Japan Council for Quality Health Care. All Rights Reserved.

診療ガイドラインの基本構造

診療上の重要度の高い医療行為

- システマティックレビュー
- 益と害のバランス
- など

最適と考えられる推奨

Copyright(c) Minds. Japan Council for Quality Health Care. All Rights Reserved.

Minds診療ガイドライン作成支援の経過

	2002	2007 手引き 2007	2014 手引き 2014
形式	文献引用が充実した教科書形式	クリニカルクエスチョンと推奨と組み合わせ	クリニカルクエスチョンと推奨と組み合わせ
トピック	標準的な知識	標準的な知識	重要臨床課題
エビデンス統合	記述的	記述的	• システマティックレビュー • 益と害のバランス
プロセス			• COI管理 • 利害関係者の参加

Minds

2種類のクエスチョン

バックグラウンドクエスチョンも重要。
日本の診療ガイドラインの特徴

クエスチョン

バックグラウンドクエスチョン

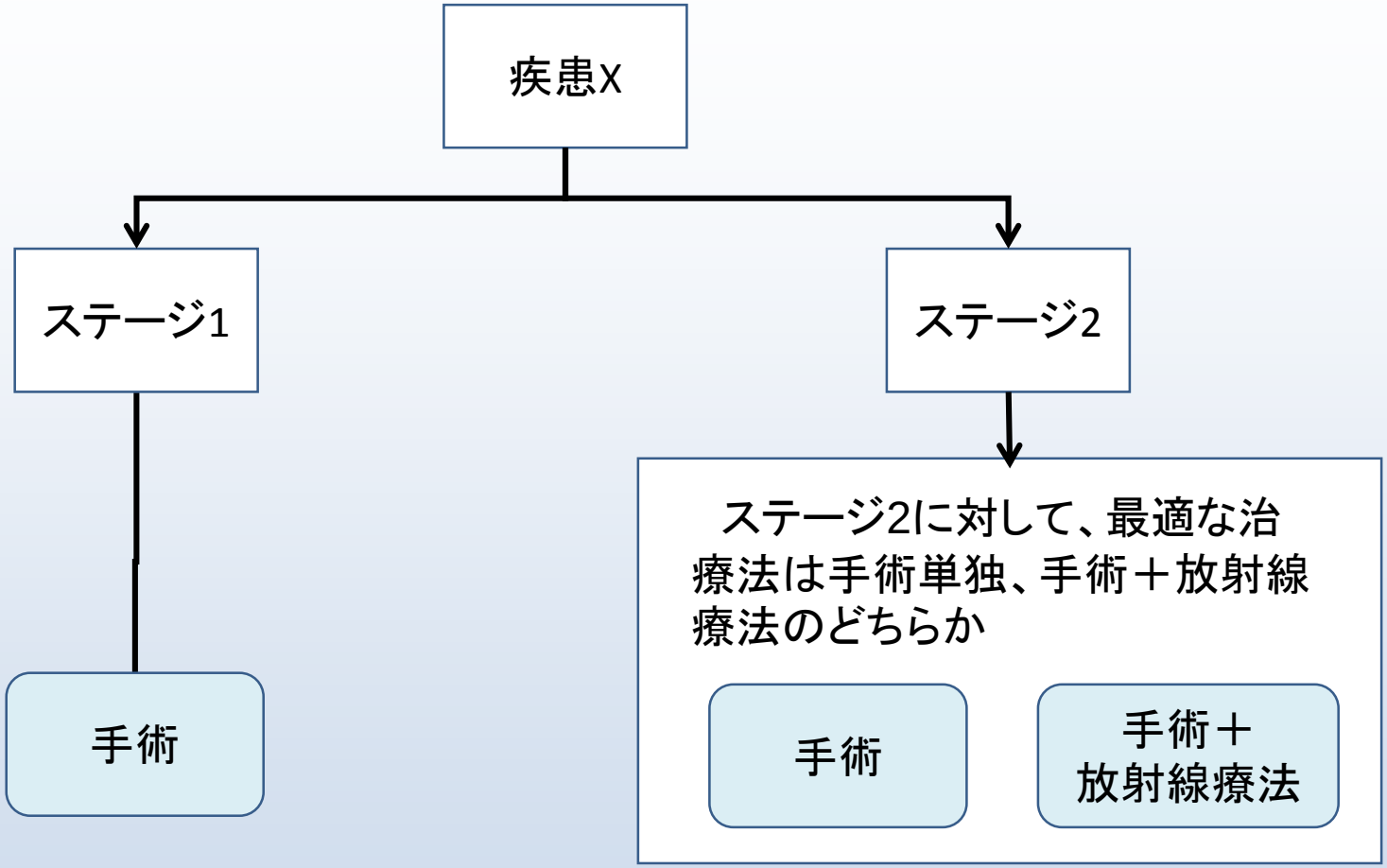
- 複数の診療オプションでない
- 標準的な知識
- システマティックレビュー必須でない
- 推奨は提示しない

フォアグラウンドクエスチョン（＝クリニカルクエスチョン）

- 複数の診療オプションあり
- 重要臨床課題
- システマティックレビュー必須

フォアグラウンドクエスチョンを全く取り上げていないものは診療ガイドラインとは呼べない

複数の診療オプション



バックグラウンドクエスチョン

フォアグラウンドクエスチョン（クリニカルクエスチョン）

診療上の重要度の高い医療行為

- 複数の診療オプションが存在する
- いずれかの診療オプションを推奨することで、患者アウトカムの改善が期待できる
  - 新しい治療法に関する研究結果が出て、従来の治療法に取って代わる可能性がある場合
  - 複数の治療法が併存していて、アウトカムが異なる可能性がある場合

診療ガイドラインの望ましいレイアウト

案1

バックグラウンド
クエスチョン

フォアグラウンド
クエスチョン

案2

1. テーマ1

バックグラウンド
クエスチョン

フォアグラウンド
クエスチョン

2. テーマ2

バックグラウンド
クエスチョン

フォアグラウンド
クエスチョン

手引き2014

26ページ

3-1　疾患トピックの基本的特徴 S：記入方法

臨床的特徴
診療ガイドラインの推奨を理解し，診療で活用するために必要な臨床的事項を記載する。病態生理，臨床分類，歴史的事項など。
疫学的特徴
診療ガイドラインの推奨を理解し，診療で活用するために必要な疫学的事項を記載する。罹患率，死亡率，受療率，生存率などの現状，経年変化，地域特性など。
診療の全体的な流れ
実地で行われている診療の全体的な流れについて，解説する。 例えば，当該疾患がステージ１，ステージ２に臨床分類される場合 ステージ１：手術療法が標準的治療として確立されている。 ステージ２：手術療法，手術＋放射線療法が並立しており，クリニカルクエスチョンとしての評価が必要（本ガイドラインで推奨作成）。

3-2　診療アルゴリズム(図)S：記入方法

診療アルゴリズム(図)
解説の理解を助けるために，診療アルゴリズムの図を追加することが望ましい。 上述の例でのステージ２のように，スコープ作成の段階ではクリニカルクエスチョンとして推奨作成の対象となっている場合は，スコープの段階では「クリニカルクエスチョン(CQ 番号)として推奨作成」と記述しておき，推奨作成が完了した後に，推奨内容を追記して診療アルゴリズムとして完成する(6 章)。

診療ガイドライン本体
（フォアグラウンドクエスチョン）